

# 70 Tick Chart Manual V1.031

Developed by Retar.jp

#### ■ 著作権・注意事項・免責事項

本ソフトウェア・文書の利用にあたり、著作権・注意事項・免責事項を承諾いただいたものとします。

本ソフトウェア・文書の著作権は作者である Retar.jp が保有しています。

投資は自己判断・自己責任でお願いいたします。本ソフトウェア・文書を使用し、取引をされ何らかの損失を被られても、Retar.jp では責任を一切負いません(間接的・付随的な障害・損失も含め一切の責任を負いません)。自己責任でご利用ください。

Retar.jp の Web サイトからダウンロードしたソフトウェアは本人利用に限り完全無料でご利用いただけます。ソフトウェア・文書の全てまたは一部の複製・コピー・リバースエンジニアリング・改変・2次配布・商用利用・転売・販売等は一切禁止いたします。違反行為を発見した場合は法的処置を行います。

Retar.jp の Web サイト上で配布するソフトウェア・文書は無料提供ですのでサポートなどは行っておりません。万が一、ソフトウェア・文書に不具合や問題があっても当サイトでは修正・対応などができない場合があります。ご利用の環境でトラブルが発生しても助言することはできませんので自己責任でご利用ください。

### ■ 自ら学び、腕を磨くトレーダー向けシステム

はじめに申し上げますが、本システムは、誰でも簡単に習得して儲かるシステムではありません。自ら学び、腕を磨くトレーダー向けです。

この資料を理解するためには、基本的なテクニカル分析の技術を理解しているものとします。

具体的には移動平均線、酒田五法、ダウ理論などについてです。

学びが必要なら自分で本を読んで理解を深めてください。

参考図書を以下にあげます。

先物市場のテクニカル分析（ニューファイナンシャルシリーズ）（日本語）

単行本 - 1990/5/24

ジョン J.マーフィー（著），（編集），日本興業銀行国際資金部（翻訳）

酒田五法は風林火山—相場ケイ線道の極意

単行本 - 2004/5/12

日本証券新聞社（著）

日本テクニカル分析大全（日本語）

単行本 - 2004/8/1

日本テクニカルアナリスト協会（編集）

## ■開発の経緯

2020年2月、Retar.jpは自前のFX用システムを完成させました。  
さらに、評価するための比較システム(ベンチマーク)を完成させました。

良いシステムはライバルがあつてこそ性能評価ができます。  
例えば米軍のF35戦闘機の試作機にはYF35とYF32がありました。  
2つを競わせ、ライバルを意識させることで、性能アップを図る意図がありました。

比較のために、業者のEAを試してみようかとも思いました。  
しかしながら、他人の製造した1製品を、評価するだけでも大仕事ですし、星の数ほどのシステムの評価をする作業を考えるとゾッとします。  
結論として採用したのは、似て非なるシステムをゼロから作り、比較検討することでした。

## ■主な仕様

目的は、内部で使う別システムのベンチマーク。

- 裁量トレードシステム
- 内部のシステムの開発手順を踏襲し、改善策のノウハウの習得、標準化
- 再現性、アカウントビリティー、透明性の確保のために文書化する
- 1分足では、性能不足のため非時系列 Tick ロウソク足を採用する
- 汎用的なテクニカル指標を採用する
- ネット公開とする

## ■実行ファイルの公開場所

[https://www.retar.jp/?page\\_id=18093](https://www.retar.jp/?page_id=18093)

## ■参考図書

70Ticks Chart For MT4 V1.02 を使いこなすための参考書

「FX スキャルピング ——ティックチャートを駆使したプライスアクショントレード入門」

2012/11/17 ・ボブ・ボルマン

## ■スキャルピングシステム設計思想

スキャルピングのトレード思想は「トレード回数を増やし、勝ちを小さく確実に。負けなら素早く損切り」です。

言い換えると「建玉をもっている時間が短ければ短いほどよく、短時間の割に稼いでいる」。

上げ相場でも下げ相場でも、テクニカル的なエッジがあるならトレードします。

トレードを実現する技術のなかで、重要なのは損切と高い勝率(イイところでエントリー)です。

勝ち続け、損切を小さくし、チリも積もれば富とします。

小さな損切と高い勝率が前提なので高いレバレッジをかけます。

短時間で取れる値幅が小さいため、少しの値動きで収益があがるようにするためです。

高いレバレッジは、もちろん、思惑と違う方向の値動きなら、大きく損をすることを意味します。

好成绩のためには、損切が最も大切であり、素早く、躊躇なく、スッパリです。

「スキャルピングの成績＝エントリー、損切の巧拙」です。

収益機会は1日に何回もあります。

相場状態がよければ、一時間に数回の機会に恵まれます。

もう一つの特徴は、どんな相場でもチャンスにしてみせます。

スプレッドが小さく、流動性が高く、値動きが大きい相場が、最良となります。

株は大きく下落すると大騒ぎしますが、そのようなときは、為替の流動性があがり大きく動くので、Bigチャンスです。

## ■外部公開する 70Tick Chart スキャルピングの特徴

裁量システムなので、投資システムの性能は2つの力の総合力です。

すなわち、①人間の投資技量と②機械(テクニカル指標)が提供する投資チャンスの提示です。

### ① 人間の投資技量

個々人のチャートの判断能力です。

個々人が勉強している点は、もちろんですが、人間の判断はその時々気分、体調などがトレードに影響します。

例えば、二日酔いでトレードすると、見間違いが多発します。

また、チャートを判定するときに確認項目が多ければ、ミスを誘発します。

### ② 機械が提供する投資チャンス

人間に判断材料を伝え、気づきを与え、ミスを減らすために、指標、シグナルを導入します。

機械が投資機会を知らせてくれれば、間違いずに、確実性の高い投資ができます。

「機械が提供する投資チャンス」の部分は、開発者のノウハウの塊であるため、普通は儲かるシステムを公開しません。

今回の提供も、個々人のチャートを読み解く力が求められます。

「人間の投資技量」と「機械が提供する投資チャンス」には関連性があります。

性能のいい機械(儲かりそうなところで「買って♡」「売って♡」のシグナルを発する装置)があれば、人間の能力を補完できます。

逆に人間の判断能力が高ければ機械の力が多少悪くてもいい成績が残せます。

採用したテクニカル指標は、難しいものではなく、誰でも使え、普及しているものを採用しました。

好きなシステムに加えることができ、改善できる裁量の余地を多分に残しています。

## ■スキャルピングのトレーニング

公開する 70Ticks チャートシステムの使いこなしは、「人間の投資技量」がほぼ全てです。

機械は投資機会を教えてはくれますが、人間がチャートから読み解かなければ、使えません。

そのためには、チャートを読み解くためのトレーニングが必要です。

このシステムでは「ある種のパターン出ているから～」などの親切なサービスはありません。

値動きの観察を通し、パターンを覚えこむ必要があります。

トレード能力は練習量(チャートをみて観察した体感量)です。

スポーツの試合に勝ちたいなら、選手は練習を喜んでやります。

しかし、投資では、トレーダーが十分な練習をするという発想をあまり聞きません。

トレードの技術は、トレーダーが苦勞して体得するものであり、ポジションを取った場数に比例して上達します。

そういう意味では、FX のスキャルピングほど効率よく練習できる投資はありません。

デモトレードも充実しており、徹底的に練習してから本番のトレードに望めます。

平日の 24 時間動いており、投資機会も沢山あり、練習が十分にできます。

株などの日足で練習をすれば、数年必要な経験量が、FX の場合トレード数が増えるお陰で、1-3カ月できてしまいます。

## ■お願い

70Ticks チャートのトレード手法の紹介は「こう使ってみたら、どうでしょう？」の手法です。

トレードルールとして、必ず「揃い」(後述:3つのチャートの方向性が揃った)から入るので「大きな値動きがあっても、エントリーできず、儲けそこなった」が頻発します。特に最近の FX は一方向に値段が走っても、同じだけ逆方向へ戻ることが多いと思いますが、片道しか収益機会になりません。

本ドキュメントで紹介しているやり方を、ぜひ発展させてほしいと思います！

すぐにできる改善策として、例えば、今までは均衡表、エンベロップ、GMMA を使っていたが、70Tick チャートでアレンジを加えるような感じです。

もっと値幅を狙いたいならオシレーター系の追加なども、おススメです。

## ■ドル円、ポンド円

スキャルピングの成績をあげようと思うと、値動きが大きいポンド円が一番ですが、チャートが「汚い」のでエントリーしづらいことが多いです。

エントリーしやすい型ができるのは、ドル円>ユーロ円>ポンド円の順番です。

他の通貨ペアでも良いのですが、小数点以下で見間違える 0.XXX とか 1.YYY の通貨ペアは採用していません。

PC の画面の制約もあり、2銘柄でのトレードをおススメします。

紹介では、ポンド円とドル円をトレード対象としています。

2通貨あれば、チャートフェースの良い方を選んでトレードできます。

更に監視するなら、ユーロ円を追加するのも、おススメです。

選択肢が増えれば、トレードできるチャンスがそれだけ増えますが、チャートが画面を占拠するので、大きな面積の画面が必要です。

## ■トレードの大原則

投資ルールの根幹です。

この部分が納得できないのであれば、このシステムを理解は不可能です。

トレードの大原則は、たった1つです。

### **エントリー前に損切りを決め、損切に達したらポジションクローズ**

損切りが執行されないであろう好条件の位置でポジションをとる方法を考えてトレードしていきます。

損切りの執行価格がきたら問答無用でポジションクローズしてください。

損切りをしたくないからといってナンピンは禁止です。

逆に損切さえ決められれば、何をやっても構いません。

大底だと思って買い、大天井だと思って売りも、「どうぞ、どうぞ！」です。

その代わり、エントリー前に損切値を決め、値段に到達したら必ず執行してください。

短期トレードの逆張り手法で、最終的な成功を収めた話を聞いたことがありません。

こちらは無知なので、ぜひ♡素敵♡な逆張りライフを教えてください。

お待ちしております。

もう一度言います。

**エントリー前に損切さえ決められ、確実に執行されるなら何をしても OK !**

しつこく言います。

**トレードする前に損切を決め、損切に達したら問答無用で執行**

最後に更にもう一度言います。

**エントリー前に損切りを決め、損切に達したら無慈悲にポジションクローズ**

以降は、テクニカルのイロハさえわかっているならば、難解な解説はありません。

テクニカル指標の解説は、移動平均線、MACD の使い方なので、他の本や資料に任せます。

## ■ 70Tick Chart とは

70Tick Chart は 70 回の歩み値 (Tick) ごとに新しいロウソク足をつくるチャートです。MT4 が受信する Tick は常に一定ではなく、70Tick とすることで、おおよそ 30-50 秒程度で1本のロウソク足をつくります。

70Tick Chart の書き出しは MT4 が業者から Tick 受信をはじめた時から開始します。そのため、同じ業者のデータを使用しても、データを受信しはじめた時刻により、描かれるチャートが微妙に違います。

それに対して、分足は、それぞれ毎分「00」秒ごとに、新しいロウソク足を書き足します。

同じ業者を使っていれば、皆同じチャートをみることになります。

70Tick Chart は、一見、1分足のようですが、ロウソク足の形以外にも違いが出ます。例えば、Tick を短時間でたくさん受信し、値段が動かないときには、レジスタンス感、サポート感が出やすくなります。

中でも、70Tick チャートで見えるようになるもので、重要なのは窓。

全受信 Tick からロウソク足を作っているため、値段が飛んだときには確実に出現します。

横軸に時間をいれることができませんが、一般のテクニカル指標は何でも使えます。今回ソフトウェアは、「FX スキャルピング」の本にあわせ、終値の 20EMA(指数平滑移動平均)を使っています。

70Tick チャートを使う理由は「1 分足」と「折れ線グラフの Tick チャート」の隙間を埋める存在だからです。

おおよそ 2015 年以降、Tick が速くなったため(おおよそ倍速)、1 分足では見づらい部分を補完して見ることができます。

以降は、実際のチャート例をあげて 70Tick Chart の特徴的な値動きを説明していきます。



## 70Tick チャートの特徴・例2: ドル円の急上昇

1分足(下)では大陽線ですが、70Tick チャート(上)では途中でヒゲになっています。

下ヒゲをみれば「さらに上」と想像しやすいと思います。

初動からでなくても乗れるところです。



70Tick チャートの特徴・例 3: ドル円1分足・緑の地点で売れるかどうか？  
70Tick チャートだと 20EMA の上に価格が入ってくるので、売りは見送りです。  
1 分足より早く認識できます。



やっぱり上げてきました。  
より早く気づき、機微がより見えるかどうか重要な例です。



#### 70Tick チャートの特徴・例 4: 1 分足との違い

初押しは買いで狙えた局面です。

70Tick チャートでは明らかに上ですが、きっかけが欲しかったところでした。

1 分足の 20EMA まで寄ってきて反転した直後にエントリー。

70Tick チャートと 1 分足では、「離れて反転」と「サポートになり反転」の関係性をもっており、値動きの差、変化を観察していきます。



#### 70Tick チャートの特徴・例 5: 緑で入るのは損切の刑のパターン

70Tick チャートのオレンジで一旦 20EMA の下に入っています。

上伸力が弱くなった証拠となります。

この場合は、余計なところでエントリーせずに済みました。



### 70Tick チャートの特徴・例 6: 押しからのエントリーの表示例

1分足はタダのイッテコイですが、こちらはヒゲ残しで入りやすい。

20EMA のはみだし量も 70Tick の方が少なく安心感があります。



### 70Tick チャートの特徴・例 7: 1分足と陽連と陰連の違いがでます

矢印の地点では陰線を引いていますが、陽連となっており、3手離れ臭さを実感させられます。

1分足だけでは心もとないのですが、70Tick チャートがあるとエントリーの力強い後押しとなります。



## ■ 70Tick チャートのトレーニング

「エントリー前に損切さえ決められ、執行されるなら何をしてもイイと言われてもお～」  
の方のためのトレーニング方法です。

70Tick チャートの説明ですが、1分足、5分足のチャートでも同じです。

この資料に限れば、理解を深めるためには、以下の手順がおススメです。

1. 移動平均線(EMA)と MACD のシグナルを理解する(本資料の対象外)
2. 値動きが一番速い 70Tick チャートに集中して特性を観察し理解する
3. 70Tick チャートと 1 分足の関連性を併せて観察し理解する
4. 70Tick チャートと 1 分足と 5 分足の関連性を併せて観察し理解する

参考のトレーニング方法です。

### ステップ①

最初はお金を入れずに、よくよく1分足と 70Tick チャートを見比べ特徴を比較します。  
データ取得は MT4 のデモ口座で構いません。

デスクトップの端っこでもいいので置いておきましょう。

眺めていると 1 分足に対して、ロウソク足の本数が多い部分と少ない部分があることに気づくと思います。

例えば1分足のロウソク足が 1 本しか無いのに対し、70Tick Chart では2-3本のロウソク足が存在する場合があります。

一方で、1分足が2-3本書かれている間に、70Tick チャートでは1本のロウソク足にしかなくなっていない場合もあります。

こういった点に気づくことが、チャートの特性を学ぶ第一歩です。

## ステップ②

最初にみる癖をつけるのは、ロウソク足が完全に EMA を上から下、下から上に跨いだ地点の観察です。(緑)

そして、次にロウソク足が触った地点の付近から仕掛けるイメージをつくります。(水色)

緑と水色のパターンを覚えていくイメージをつくっていきます。

おススメしているのは、水色が仕掛ける候補です。

「 İyi水色」と「悪い水色」にどういう違いがあるか、他の指標を含め観察をすすめていきます。



## ステップ③

一つのやり方ですが、完全にロウソク足が 20EMA を跨いでしまえば、問答無用で損切です。

ただし、これでは損切が遅すぎるので、もっと早くするにはどうする？を考えます。

強制的に損切が決まっているので、その範囲でできることが何か？を追求するスタイルがおススメです。

損切にあう水色地点のロウソク足と、あわないロウソク足の違いは何か？と、あわせ 70Tick、1分足、5分足をよく見比べ、チャートの特徴を調べていきます。

ドル円の1分足と70Tickチャートを見比べて眺めるためのオススの表示例です。  
上下に並べてみるのがオススメです。



■トレード成功のためには、値動きの「ストーリー性」を重視する  
「ストーリー性」というのは、本説明をするための用語です。  
例えば緑の矢印からのエントリーのストーリー性。

1分足の52EMAと20EMAがデッドクロスを継続していました。  
また、長い上ヒゲが52EMAで抑え込まれ、下落圧力の高さを感じました。  
70Tickでは、20EMAがカブセやヒゲでレジスタンスになっているのが見取れます。  
よって、下落圧力の強さが認識できます。  
70Tickの20EMAでコマとなりました。先ほどのヒゲとは明らかに違う足。  
固まった瞬間にエントリーしました。

下線の部分が「ストーリー性」です。下落してきた様子をテクニカル的に説明できています。  
その背景をエントリー前に根拠として説明することで、エントリー時の安心感が生まれ、トレードに確信がもてます。  
このシステムが「使える」「使えない」の分かれ目の部分です。



■「揃い」とは

本解説では、「揃い」という用語も使っています。

70Tick、1分足、5分足の足が、すべて揃って「買い」か「売り」ができる条件になったことを現しています。

スキャルピングでは、勝てるときに、勝てることをすることに徹しなければ成績が出ません。

基本的に全部が買いで「揃う」、または、売りで「揃う」ところが優位なので、このシステムでは優位な時にしかトレードをしません。

## ■ 1分足、5分足の設定値

今回の解説で使用している MT4 のチャートの設定値です。

気に入らない方は、もっとイイのを「どうぞ、どうぞ！」。

MT4 では1分足のチャート、5分足のチャートを使用します。

それに 70Tick チャートを加え3枚のチャートを見比べます。

細かい MT4 の使用方法は割愛します。

## ● 1分足の設定値

Moving Average dialog box settings for a 1-minute chart:

- 期間: 20
- 表示移動: 0
- 移動平均の種類: Exponential
- 適用価格: Median Price (HL/2)
- スタイル: Red

Moving Average dialog box settings for a 5-minute chart:

- 期間: 52
- 表示移動: 0
- 移動平均の種類: Exponential
- 適用価格: Median Price (HL/2)
- スタイル: Blue

赤: 20EMA Median

青: 52EMA Median

## ● 5分足の設定値

Moving Average dialog box settings for a 5-minute chart:

- 期間: 52
- 表示移動: 0
- 移動平均の種類: Exponential
- 適用価格: Median Price (HL/2)
- スタイル: Blue

青: 52EMA Median

MACD dialog box settings:

- メイン: Silver
- シグナル: None

MACD dialog box settings:

- 短期 EMA: 12
- 長期 EMA: 26
- シグナル: 9
- 適用価格: Close
- 下限設定: -0.11958
- 上限設定: 0.12373

MACD: Main のみ使用・Default 値

●MT4 での設定画面例

トレーディング指標を入れた状態の MT4 です。  
他のトレーディングソフトウェアでも再現可能です。



## ■システムの欠点

投資システムを含め、すべてのシステム開発では弱点を知り、潰すのが基本です。システム開発者は、自分で使うシステムを、自分で作れば弱点を熟知できますが、他人のシステム使うにあたっては、開発者に質問するか、実際に提供されたシステムをテストしなければわかりません。

本システムが抱える弱点は、先ほど紹介した一方向に動いていた相場が大きく反転した時点で収益機会にならないことがわかっています。

また、強い上昇、下落でも苦手な局面があります。

例として、オレンジの地点で、押しから入りたいのですが、押しがEMAなどにタッチしないため、売りのきっかけが無く入れません。



こうした状況は「儲けそこなった」だけで「損した訳ではありません」。

「フェイルセーフ(儲けられなくても損はしない)になっていれば、システムの仕様として十分」という考え方に基づいています。

## ■年に数回値段が飛ぶ

FX では年に1回程度は値段のスパイク(値段のぶっ飛び)が発生します。

Twitter は阿鼻叫喚となり、新聞には「証拠金の回収～」みたいな見出しが出ます。

こんなときに大損するポジションを持っていると、タダではすみません。

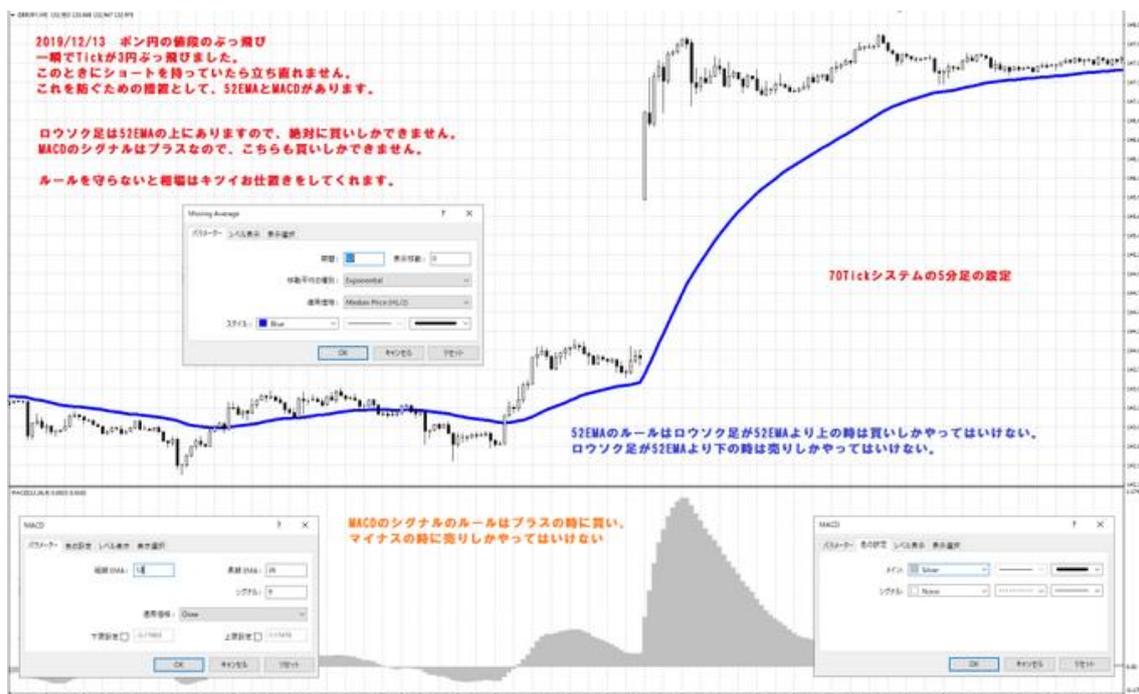
システムが一番重要な役割は、こうした状況で「得するポジション」か「何もポジションを持たない」状態に強制的に持ち込むことです。

「揃い」を強制することで、実現されます。

例は 2019/12/13 のポンド円の値段の3円程度のスパイクです。

この局面で売りポジションを持たないようにするのが、5分足の最大の使命です。

この手の値動きがあったら必ずデータを取得しておき、自分がトレードしていたらどうなったかを、よくよく観察します。



## ■最後に

皆様におススメしたいのは、自分の手法とは異なる、または似て非なるシステムを作って公開してみてください。

見ず知らずの他人につかってもらうことを前提に作るのは面白い経験です。

もう一つ別のものを作るのは、新鮮ですし、客観的に別の自分の手法を眺められる良い機会です。

厳しい目のある Twitter で説明してみると、勉強になります。

自分のトレードの欠点も、色々みえます。

順序だてて説明する難しさ、論理的矛盾が炙り出されます。

## ■ 実践的トレード例

これ以降は、移動平均線、MACD の性質を理解している前提です。

実践的にチャートを、どう現場で判断し、どう思いとどまったかの例を紹介します。

### ● 例1:ポンド円

下落してきた相場が反転の兆候を見せる局面です。

1分足の 20EMA マタギがなかったのですが、出てきています。

先ほどまでとパターンが変わったと感じた瞬間に「ヤバいので様子見」です。

このまま、新安値をつけると涙目ですが、「儲けられない」より「怪しいところで手を出さなかった」が大切です。



## ●例 2:ドル円

結論として「揃い」ではない例。

5分足は移動平均の下なので売り、1分足が移動平均より上に入り上げを示唆しています。

また、1分足の52EMAと20EMAがゴールデンクロスしており、これも上げを示唆しています。

70Tickチャートでは、20EMAにサポートされ上げてきており、売りができる状況ではありません。

分析結果として5分足売り、1分足買い、70Tickチャート売りとなります。

もちろん、エントリーして儲けていたかもしれません。

ですが、スキャルピングはレバレッジが高いので、絶対に無理は禁物。

無理をしないから、損切にあいづらくなります。

勝てる可能性の高いところだけを集中して狙っていきます。



●例 3:ドル円

5分足、1分足デッドクロスを確認。

緑のエントリーは70TickがEMAから離れて、売り圧力がいよいよ高まったところ。

戻り売りのパターン崩れを確認できており、最後の加速地点と判断。

最後に上げ下げが加速する可能性を狙っています。

エントリーのきっかけを、緑の1分足のヒゲで確認。

ドンと落ちて利食い。

更に下に行くこともあります、5分足、1分足、70Tickが移動平均から離れてしま

い、今までとは下落パターンが変化しています。

わからないので、いつまでも建玉を持てません。

その後、案の定の大陽線で反転しています。



●例 4:ドル円

70Tick チャートでは、あらゆるテクニカル分析を駆使します。

三尊天井のネックラインからの下落です。

70Tick チャートは、長いヒゲとコマが出やすい傾向があります。

水色の地点でははっきりと上ヒゲが出ています。

下落局面でも陰線続きで、下げがわかりやすくなります。

1分足との違いがわかる好例です。



●例 5:ドル円

70Tick チャートの三尊天井からの想像力が試させる局面です。

例えば「2匹目のドジョウ作戦」なら、ネックラインまで戻って落ちたので、110.25 円ぐらいまで戻ってレジスタンスになるところを狙うトレードです。



## ●例 6:ポンド円

1分足と70Tickチャートの比較。

必ずしも70Tickチャートが優れているわけではなく、1分足がイイこともあります。

「揃い」を重視しているのはそのためです。

緑では70TickはEMA20が利いています。

この地点では、1分足が頼りになりません。

オレンジでは、1分足はヒゲですが、70Tickチャートでは大陽線を残しています。

今後の上昇を示唆する値動きです。

紫では、1分足の方がヒゲありで、こちらがイイ点です。

水色では、20EMA割れを確認しているのが、70Tickの方が早くに損切位置に到達しています。



●例 7:ドル円

三山の上抜けは、高い確率で取れるパターンです。(同様に三川も)

水色から入りましたが、オレンジでも悪くはありません。

ボヤボヤしていると損切になるのがスキャルピングです。

緑の地点で 70Tick が先に EMA の下に入ってきていますが、こうなると問答無用に損切です。



●例 8: ポンド円(上)とドル円(下)

やり易い方をやる例です。

日本時間帯は連れ高安になりやすい傾向があります。  
ドル円の方が、押しの前に大陽線をしっかり立てています。  
押しからの反発があったところからエントリーしています  
ポンド円は、押しがないので見送りました。



●例 8:ポンド円

「こういう時は入れません」の例。

1分足は52、20EMAがゴールデンクロスのまま、Tickだけが下に入ってきたようなときは見送り。

形が良くなるまで待ちましょう。



●例 9:ドル円(上)とポンド円(下)どっちのトレード？

値幅を見ると「ポンド円が～」となりますが、安定して収益になるのはドル円。

チャートの形が良い方を選びます。

矢印のオレンジ、水色の値段の暴れに注目すると、オレンジはヒゲで支えられてわかりやすい。

だからこそ、緑で入りました。

ポンド円だと振り回されて嫌な思いをします。



●例 10:ドル円

「逃がした魚は大きかった」でも、それでヨシ。

緑で完全に上にロウソク足が抜け、水色でも足が EMA に当たっています。

よって、上昇トレンドを判断。

直前に 20EMA の舐め(ロウソク足が 20EMA に沿っていること)を見ており、紫の押しで入りました。

跳ねたので、オレンジで利食いました。



このトレードにはオチがあり、更に上げて涙目

こういう時は「悔しい～」と思いますが、これがスキャルピングというものです。

それでも「損して悔しい～」ではなく「儲けそこなって悔しい～」です。

前者はマズイのですが、後者は段々慣れます。

チャンスは、すぐにくるので気持ちを切り替えます。



●例 11:ドル円

上伸力が弱まった判断は 70Ticks チャートの陰線の長さで判断できます。

1分足より、70Ticks が優れている点だと思います。

三度目の正直もありますが、一気に移動平均まで引き戻されるデカイ陰線、陽線を見たら「一旦やめた！」です。



●例 12: ポンド円(上)とドル円(下)

ドル円はオレンジで、前回2回のような EMA 舐め待ちでしたが、EMA のマタギをみてダメと判断しました。

ポンド円は緑で上ヒゲがあつて、Tick が EMA から離れており、強い下落となりました。

1 分足の EMA タッチ(水色)で入りました。

大きく落ちたら、即利食いです。

2匹目のドジョウの紫も 1 分足の EMA タッチから連続で入りました。

もちろんここでも一旦大きく落ちたら、即利食いです。

Tick と足が離れる局面が、このシステムの十八番です。



●例 13: ポンド円

70Tick の EMA がロウソク足から離れ、強い下落が確認できる局面でのエントリー。  
1分足では、なんだか分からない鯨幕相場ですが、1分足の 20EMA に近寄ったのを  
手掛かりに、紫から売りました。  
直近の下落前でも、EMA マタギが多かったので、落ちるイメージが持てず、利食い千  
人力。



●例 14:ドル円

70Tick チャートを起動してロウソク足書き溜め中です。

EMA タッチでもみ合いからのいきなり下げですが、朝なのでスプレッドも開いており、手掛かりがなく入れません。

もちろん「手掛かり」があれば、また、損切さえ決められれば入って構いません。

わからない時は、おやつやごはんでも食べて、待つのが一番だと思います。



●例 15:ポンド円

損切さえ決められれば入れるパターンです。

スプレッドが大きく、あまりに下落しすぎだったので、入るのが怖い状態です。

手掛かりとして、70Ticks チャートで、しばらく 20EMA から離れて推移しており、ヒゲ後の陰線数手だったので、一発はありそうな感じとみました。

三川の下抜けの基本パターンでもあり、損切は 1 分足のタッチの瞬間。



●例 16:ポンド円

70Tick チャートでダブル、1分足では団子底。

底堅い確認が取れたので、青から買いました。

70Tick チャートと1分足の表示の異なる例。

損切は 70Tick チャートの陰線実態ヒゲ抜きを想定しています。



●例 17:ドル円

1 分足の EMA がデッドクロスしたまま、下落しています。

青以降に 52EMA 超えがありますが、上値が2回目に切り下がっています。

3回目となるオレンジから入りました。

損切は1分足の赤タッチ。

反転しやすいので、走って止まった瞬間に即利食い。

この場合は「上値の切り下げを確認しながら」と判定していますが、ペナントの下抜けという判断でも OK だと思います。

直近の EMA のマタギが散見されているため、利食い損切は即断即決です。

ストーリー性が大切だとわかります。



●例 18: ポンド円

70Ticks チャートに EMA に絡みながらの下げであり、ロウソク足が不規則です。

いわゆる「チャートがバッチィ〜」です。

損切は決められますが、シナリオが「ショボい」ということで見送りました。

もし入るなら、2つ目のオレンジあたりの移動平均から新安値までしか狙わない。

大陽線を出しながらの下落でもあるため、意外と急反転があり、エライ目にあう可能性も高いとみえます。



●例 19:ドル円

オレンジで 20EMA のレジスタンスの確認となります。

1 分足の 20EMA から離れて、ドンと落ちるパターンでした。

通常は紫で利食いです。

前回からの N 波動にしては値幅が足りないと思えば、我慢でき、もう一声の下落を待てたと言えます。



●例 20:ドル円

「こういうところで絶対にやらない」例です。

1つ前の下落のように 20EMA の舐めを期待しましたが、大陽線一本の抜きでした。

こういう時は形が出るまでの、お待ちください相場。

わかりやすいパターンですが、引っかかってはいけません。



●例 21:ポンド円

十八番の下落パターンのねらい目です。

緑2か所で1分足のデッドクロス(52EMA)を下回りました。

後はエントリーのきっかけが必要なところです。

水色の陰線2手目の決まりで入り、紫は耐えました。

利食いは陰線のヒゲらしくなった赤の瞬間です。

エントリー前に決める損切は、70Ticks チャートの EMA タッチで毎度のパターンです。

下落しているストーリー性を確認しながら、順張りで売っているだけです。



●例 22: ポンド円

5分足の MACD のプラス転換を利用しエントリーしています。

MACD のプラスからマイナス、マイナスからプラスへ、転換したばかりの地点で狙うのは、悪いトレードではありません。

大抵の場合、最低1回は転換方向に狙えるところがあります。

この場合は入る直前に 70Tick チャートで、EMA の舐めを確認しているので入りました。

損切は「直近安値を切れば」です。

この場合、70Tick チャートも 1 分足も EMA 割れを起こしているのに、すぐに戻ることが想定できます。

伸びた瞬間に利食いです。



●例 23:ドル円

チャンスはすぐにやってくる例です。

5分足が売りゾーンに入っており、「揃い」となっていないため、オレンジはルールに従い見送りました。

ルールは厳格に運用します。



5分後に、長い上ヒゲをみて躊躇なく売りを入れました。

5分足は売りゾーン、1分足はデッドクロス。

70Tickも揃いまで待ち、有利なところで取ります。



●例 24:ドル円

70Tick チャート、1 分足の 20EMA の「舐め」の確認は、優れたきっかけです。

当然、損切は舐めの EMA の実態抜きで決めやすい。

この場合は 1 分足の舐めを確認してから入りました。

70Tick は離れっぱなしなので、強い売り圧力を示唆しています。

もちろん 5 分足は売り可能状態だったのでわかりやすい。



●例 25:ドル円

「この顔にピンときたら！」の基本は、酒田五法の三山、三川。

1分足、Tick 足で三山、三川をみかけたら、仕掛ける準備開始です。

この場合は三山から。

三尊や逆三尊もお仲間です。

最後が高い場合、最後が低い場合など、綺麗にできることは、ほとんどなく、ある値段の天井感、底感を感じたら、エントリー準備する習慣をつけましょう。



●例 26:ドル円

システムの苦手のパターンです。

強い下落の後に、1分足の 52EMA まで戻り、再度大きく下落するときの判定が苦手です。

強い下落の後なので、再度の下落を想定してオレンジで入りました。

この場合は1分足で 20EMA の舐めが確認できています。

利食い直後のスナップショットですが、エントリー前には利食いポイントを新安値付近と想定していたためです。



その後のチャートです。  
更に大きく下落し涙目です。

このトレードでは、52EMA の舐めが下落の確認になりましたが、紹介中のやり方では「きっかけがつかめない」パターンです。

ここで考慮すべきは以下。判断は個々のトレーダー次第です。

- ① チャンスで儲けられないダメなシステム？
- ② 残念だったね、またいい時に今度？



●例 27: ポンド円

5 分足で 52EMA の舐めを確認しました。

MACD も転換後にそれらしい上げがないので、期待できる局面です。

70Tick チャートで、長い下ヒゲの踏み台を確認した瞬間に買い。

前回高値の長いヒゲ付近で利食い。



三川の下値確認も重要です。

1分足の 52EMA をサポートに下値が切り上がってきている点が評価できました。

ストーリー性の骨子なので見逃さないところです。



●例 28:ドル円

「揃い」待ちの局面です。

紫で入りたかったのですが、1分足がゴールデンクロスのままなので「売りたい」を我慢します。

「あと1分足がデッドクロスすれば！」なので待機。

少し待つことで、緑で2手確認の後に売り。

この場合は、ルールを厳格に適用し、一要素を待つパターンです。



●例 29: ポンド円

赤2か所と青の地合いの変化がわかる例。

20EMA で抑えられたものが(赤)、EMA を一本の大陽線で抜けました。

先ほどまでは EMA の舐めを確認して、売れましたが、変化したのがわかります。

もちろん、水色は手出し無用。





●例 31:ドル円

70Tick チャートでは窓が出ますので、出たときは有効活用します。  
オレンジの切り下がりを確認して、窓開けした瞬間(緑)に入りました。  
利が乗ったところで透かさず利食い。

